

## 2-3 一酸化窒素(NO)

一酸化窒素については、環境基準は定められていないが、発生源からは一酸化窒素(NO)の状態では排出されることが多く、そのNOが空気中で酸化され二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)に変化するなど、大気汚染物質として監視が必要な物質である。

### 2-3-1 概要

平成28年度のNOの測定は、NO<sub>2</sub>と同様に県下35市町に設置した一般局98局(有効測定局(年間の測定時間数が6,000時間以上)96局)、自排局26局(有効測定局26局)、合計124局(有効測定局122局)で行った。NOの環境濃度は、一般環境大気で年平均値0.003ppm、道路沿道周辺大気で0.012ppmであった。

表2-3-1 平成28年度NO測定結果概要

濃度	一般局		自排局	
	年平均	年最高	年平均	年最高
平均(ppm)	0.003	0.118	0.012	0.241
最低(ppm)	0.000	0.017	0.003	0.066
最高(ppm)	0.008	0.303	0.037	0.450
最高値局名	市川二俣 佐倉直弥	浦安猫実	野田宮崎(車)	千葉真砂(車)

### 2-3-2 測定結果

#### (1)地理的分布

一般局年平均値の地理的分布を図2-3-1に示した。平成28年度の一般局による測定結果は年平均値で0.000～0.008ppmの範囲にあり、東葛、葛南及び千葉地域で濃度が高い状況となっており、葛南地域の市川二俣局、千葉地域の佐倉直弥局が最高値0.008ppmを示した。自排局年平均値の地理的分布を図2-3-2に示した。自排局による測定結果は年平均値で0.003～0.037ppmと範囲が一般局に比べ広がった。地域的には野田、東葛、千葉地域に0.020ppm以上の局が見られ、野田宮崎(車)局が0.037ppmと最も高濃度であった。

一般局年最高値の地理的分布を図2-3-3に示した。年最高値は0.017～0.303ppmの範囲にあり、年平均値と同様に東葛、葛南、及び千葉地域で濃度が高い状況となっており、葛南地域の浦安猫実局が最高値0.303ppmを示した。自排局年最高値の地理的分布を図2-3-4に示した。年最高値は0.066～0.450ppmの範囲にあり、野田宮崎(車)局、千葉真砂(車)局、千葉千草台(車)局が0.400ppmを超えていた。

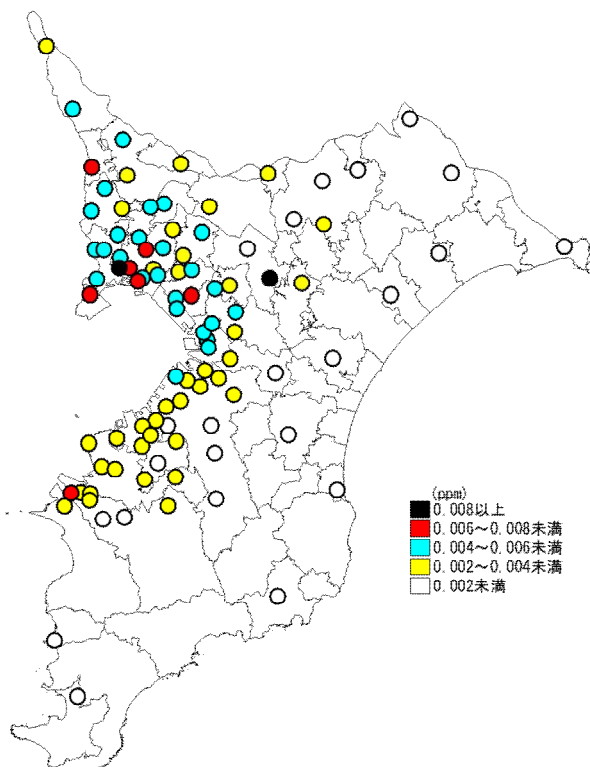


図2-3-1 NO年平均値の分布(一般局)

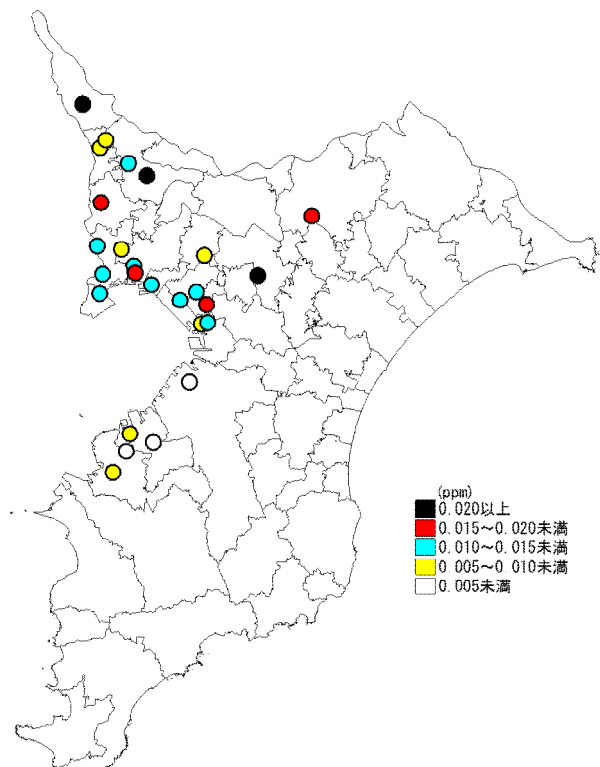


図2-3-2 NO年平均値の分布(自排局)

(図2-3-1と図2-3-2の凡例は濃度区分が異なります。)

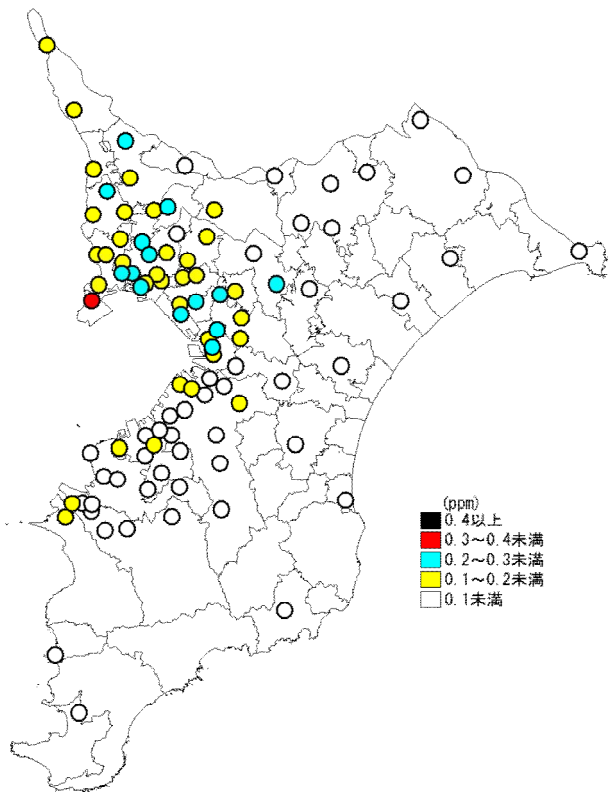


図2-3-3 NO年最高値分布図位(一般局)

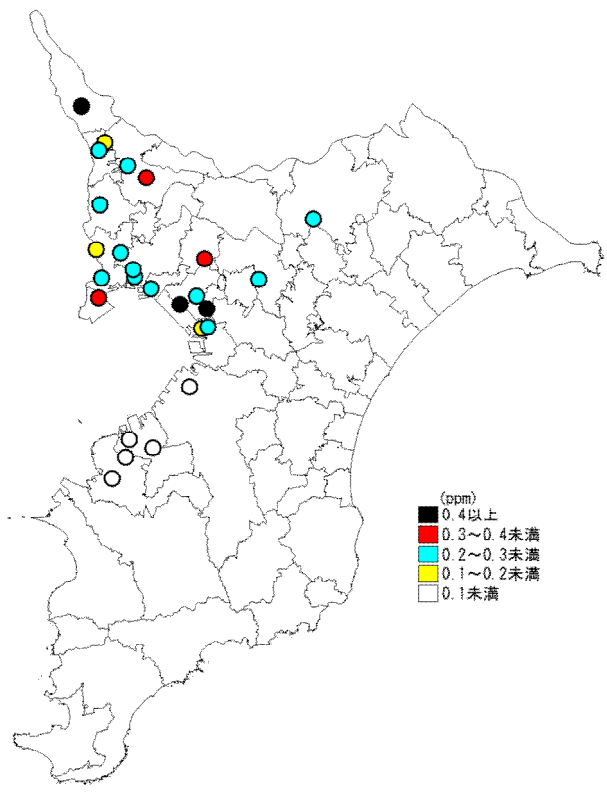


図2-3-4 NO年最高値分布図位(自排局)

### (2)月平均値の経月変化

平成28年度のNO月平均値を平成8年度、18年度とともに図2-3-5、図2-3-6に示した。NO<sub>2</sub>と同様に、一般局、自排局ともに、いずれの年度も大気が安定しやすい11月から1月に高くなる傾向があり、平成8、18、28年度と年度が進むに従いピークが小さくなる傾向があった。

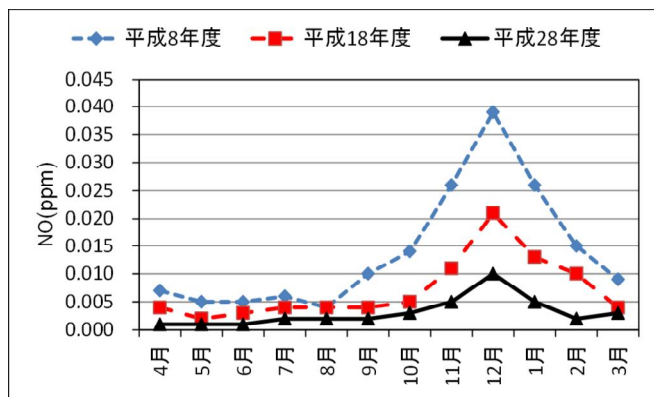


図2-3-5 NO月平均値の経月変化(一般局)

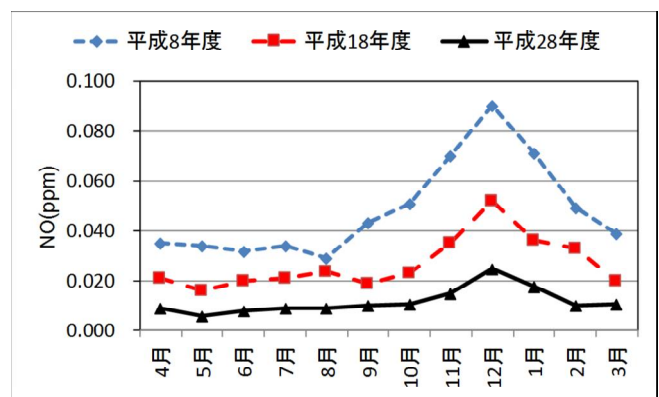


図2-3-6 NO月平均値の経月変化(自排局)

### (3)年平均値の推移

一般局について、昭和53年度から平成28年度まで継続して測定している53局について、地域別に集計しその推移を図2-3-7に示した。各地域の推移は類似しているが、野田・東葛、葛南、千葉の濃度の高いグループと、市原、君津、印西・成田・北総の濃度の低いグループに分けられた。

昭和58年度頃より平成10年度頃まで、各地域ともに緩やかに濃度が上昇していたが、平成10年度以降、濃度は低下に転じた。高濃度の地域の方が低下が大きく、地域間差は次第に小さくなり、平成28年度では地域間の最大濃度差は0.003ppm(葛南地域-印西・成田・北総地域=0.003ppm)となった。自排局については、昭和53年度から平成28年度の間20年以上測定している26局の中から地域別に6局を選び、その推移を図2-3-8に示した。局によって推移は若干異なっているが、平成14年度以後は6局全て、低下傾向にある。昭和50年代は測定局間の濃度差は大きかったが(昭和58年度:柏旭(車)局-市原五井(車)局=0.077ppm)、全体的な濃度の低下に従い、測定局間の濃度差は縮小した(平成28年度:市原五井(車)局-成田花崎(車)局=0.012ppm)。

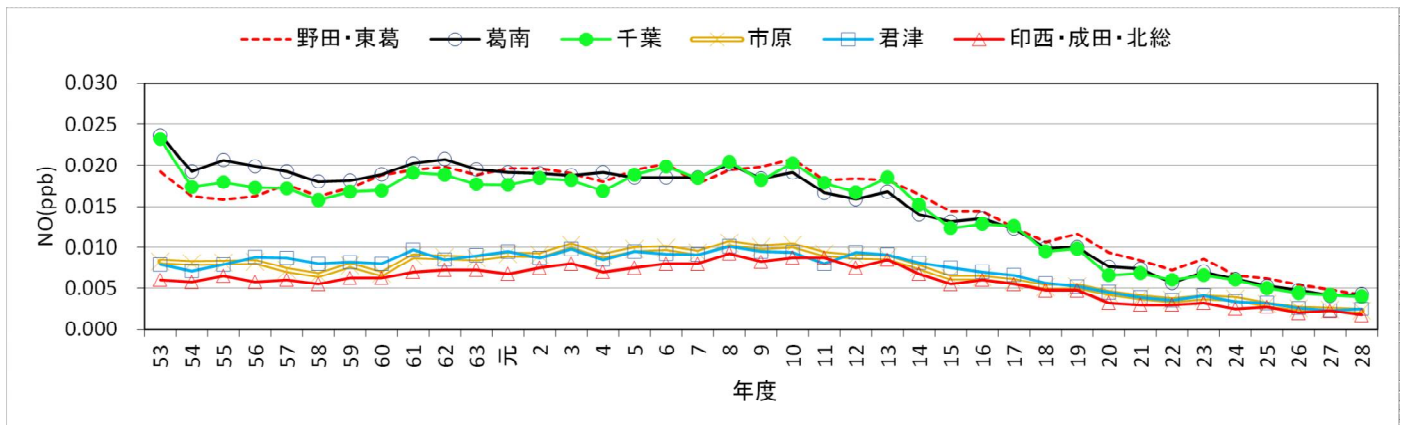


図2-3-7 NO年平均値の推移(一般局)

昭和53年度から平成28年度まで継続して測定している測定局53局を地域別に集計した値。

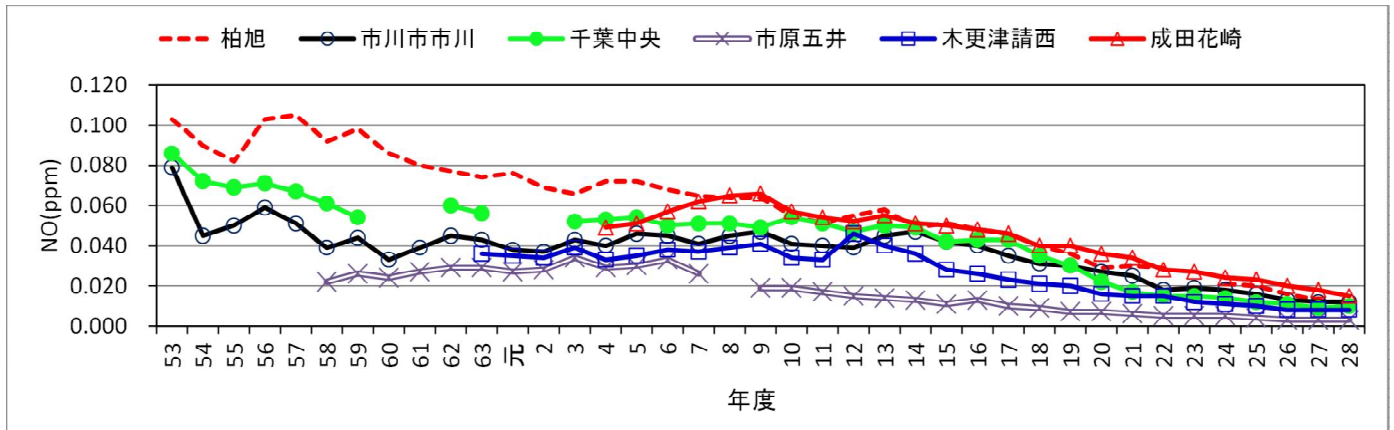


図2-3-8 NO年平均値の推移(自排局)

昭和53年度から平成28年度の間20年以上測定している26局の中から地域別を選んだ6局。局名の(車)は省略。

(4) 年平均値等の濃度上位局

平成24年度から28年度までの一般局における年平均値については、4、5位の局数が多いため、上位3位までを表2-3-2に、表2-3-3には年最高値上位5位を示した。

年平均値は東葛、葛南、千葉地域の局が濃度が高く、5年間でこれらの地域以外の局が5位以内に入ったのは、平成27、28年度の君津人見局のみであった。

年最高値については葛南地域、千葉地域の局の出現頻度が多いが、26年度は市原地域の市原潤井戸局が2位となり、27年度は印西地域の印西高花局が4位となった。

表2-3-2 NO年平均値上位3位(一般局)

(ppm)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値
1	市川二俣	0.012	市川二俣	0.011	市川二俣	0.010	市川二俣	0.008	市川二俣 佐倉直弥	0.008
2	千葉宮野木 流山平和台	0.010	船橋高根 千葉宮野木 流山平和台	0.009	千葉宮野木 流山平和台	0.008	流山平和台 佐倉直弥 船橋南本町 船橋若松 船橋高根 千葉宮野木	0.007	千葉宮野木 君津人見 船橋若松 船橋高根	0.007
3	千葉蘇我 船橋若松 佐倉直弥 船橋高根	0.009	船橋若松 船橋南本町	0.008	船橋高根 佐倉直弥 習志野谷津 君津人見 船橋南本町 船橋若松	0.007	君津人見 習志野谷津 千葉蘇我	0.006	浦安猫実 流山平和台 船橋南本町	0.006

表2-3-3 NO年最高値上位5位(一般局)

(ppm)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値
1	市川二俣	0.357	船橋若松	0.364	市川二俣	0.373	市川二俣	0.477	浦安猫実	0.303
2	柏大室	0.334	千葉宮野木	0.338	市原潤井戸	0.284	船橋若松	0.371	市川二俣	0.291
3	千葉宮野木	0.322	市川二俣	0.294	千葉山王	0.279	千葉宮野木	0.332	船橋若松	0.286
4	船橋若松	0.320	松戸ニツ木	0.282	船橋南本町	0.277	印西高花	0.314	千葉宮野木	0.254
5	習志野谷津	0.288	船橋高根	0.266	船橋若松	0.274	千葉山王	0.283	千葉山王	0.236

表2-3-4に平成24年度から28年度の自排局における年平均値上位5位を、表2-3-5に年最高値上位5位を示した。自排局の年平均値は、野田宮崎(車)局、柏大津ヶ丘(車)局、松戸上本郷(車)局、船橋日の出(車)局、佐倉山王(車)局が5年連続で上位5位に入っており、野田宮崎(車)局、柏大津ヶ丘(車)局は平成24年度～28年度の間、1、2位を占めている。年最高値は、野田宮崎(車)局が平成24、25、26年度1位であったが、27年度は千葉千草台(車)局が、28年度は千葉真砂(車)局が1位となった。平均値では上位に入っていた成田花崎(車)局は最高値では5年間で一度も上位5位以内に入ることは無かった。

表2-3-4 NO年平均値上位5位(自排局) 局名の(車)は省略。

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値
1	野田宮崎	0.054	野田宮崎	0.050	野田宮崎	0.046	野田宮崎	0.042	野田宮崎	0.037
2	柏大津ヶ丘	0.033	柏大津ヶ丘	0.031	柏大津ヶ丘	0.028	柏大津ヶ丘	0.027	柏大津ヶ丘	0.023
3	佐倉山王	0.027	佐倉山王	0.025	佐倉山王 松戸上本郷	0.022	佐倉山王 松戸上本郷	0.020	佐倉山王	0.020
4	船橋日の出	0.025	松戸上本郷 成田花崎 船橋日の出	0.023	船橋日の出	0.021	船橋日の出	0.019	松戸上本郷	0.019
5	松戸上本郷 成田花崎	0.024	千葉千葉港	0.022	成田花崎	0.020	成田花崎	0.018	船橋日の出	0.017

表2-3-5 NO年最高値上位5位(自排局) 局名の(車)は省略。

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値
1	野田宮崎	0.594	野田宮崎	0.614	野田宮崎	0.594	千葉千草台	0.528	千葉真砂	0.450
2	千葉真砂	0.495	千葉千草台	0.491	千葉千草台	0.518	野田宮崎	0.525	千葉千草台	0.449
3	佐倉山王	0.436	千葉真砂	0.438	千葉真砂 柏大津ヶ丘	0.400	柏大津ヶ丘	0.450	野田宮崎	0.426
4	千葉千草台	0.433	柏大津ヶ丘	0.370	市川行徳	0.342	千葉宮野木	0.433	八千代村上 柏大津ヶ丘	0.346
5	浦安美浜	0.394	千葉宮野木	0.363	浦安美浜	0.330	千葉真砂	0.411	浦安美浜	0.321